

花ひろく 千溝歌舞伎

感動の地芝居へのご案内①

本格の稽古始まる

三桝清次郎師匠が3日間指導

4月11日の「再発進」魚沼千溝歌舞伎。大人も子どもも一生懸命の稽古が続けられている。



子ども歌舞伎の稽古

2月21・22・23日の3日間に渡り、千溝歌舞伎の師匠である三桝清次郎さんが芝居の稽古のため千溝を訪れた。稽古会場は千溝の集落センター「やまびこ」。子ども歌舞伎の演目は「忠臣蔵外伝・大石東下り」。師匠は、武士が交わす言葉、気持ちの動きなど、細かな所まで指導していった。

「台詞の心を肝に入れて語ろう、台詞の意味や背景が分かっている」と良い芝居になる「な」とど丁寧に教えていた。子ども達も真剣な表情で師匠の言葉に耳を傾けた。

午後からは「双蝶々曲輪日記・引窓」の稽古



三桝清次郎師匠

古。この演目は派手な場面や立ち回りは無く、登場人物の想い、肉親の情愛がテーマとなっていて。役者の台詞で芝居が進むので、この日の稽古でも台詞の言い方の直しなどが中心となった。清次郎師匠は「台詞にもっと抑揚



双蝶々曲輪日記「引窓」

をつけて」「ここは捨て台詞で、ブツブツ言って次からちゃんとした台詞に」と指導。時には「そこは違う。もっと驚かないと。その言い方は筋を知っている人の言い方」と厳しい指摘も。

21日の稽古は1時半から9時まで続いた。4月の本番まであと50日。真剣そのものの稽古は続く。

- ◆ チケットは特別席と松席が完売。竹席4千円、梅席3千円、桜席2千円が販売されている。
- クラウドファンディングも行われる。
- 当日の昼食用の弁当なども出店の4店で予約が始まる。

これは越南タイムズ2月26日号の記事です。

今後、「千溝歌舞伎」の解説などを毎週連載してくれるそうです。

どんな内容になるか楽しみです。